

アナログ回路技術者育成へ

県などがフォーラム開催

県と県アナログ関連企業連絡協議会が主催する「群馬アナログ技術立県推進フォーラム」(群馬大学など共催)が1月29日、群馬産業技術センター(前橋市亀里町)で行われた。アナログ技術とその技術者育成の重要性を広く周知していこうと

開催しているもので、今回で7回目の試み。企業や大学の研究者ら約90人が参加し、群馬大学工学部が行っている人材育成事業や最新の技術動向などを学んだ。「デジタルを活かすアナログナレッジ養成拠点」をテーマに講義した

群馬大学大学院工学研究科の山越芳樹教授は、アナログ技術について「世界の科学技術の進展に必要不可欠な差別化技術」と解説。09年から文部科学省の技術戦略推進補助金の採択を受け、実施しているアナログ回路技術者養成



企業や大学の研究者90人が参加した

講座の概要や今年度の開講計画を発表しつつ、「これまで延べ1200人の修了生(43社)が出ているが、大手企業が多い。中小企業の方にも気軽に参加してもらえれば」と呼び掛けた。一方、近年注目を集める個別企業のニーズに

キのスキルが十分ではないが、エレキの二の足を踏む企業は多いはず」と活用を促した。このほか、会場では「スバルの先進運転支援システムEyeSightとその技術」などをテーマに講演会を実施。終了後は交流会も行われ、研究者同士が情報交換した。

対応した「アナログ工房講座」に関しては「単なる技術支援ではなく、社内に技術を根付かせるのが狙い」と指摘。導入した企業の事例を紹介しつつ、「新しい分野に参入したいが、エレ